

博物館だより

国指定史跡・甲斐金山遺跡／湯之奥・中山金山 甲斐黄金村・湯之奥金山博物館報

オリンピックイヤー2020 金っていちばんいいよね!



台風による
中止の心配もあった
2019年大会。
写真は2019年
「砂金掘り大会」の
表彰式の一コマ
2020大会の
金メダリストは誰?

日本をはじめ世界中がオリンピックイヤーで沸く2020年。博物館の砂金掘り大会も20周年を迎えます。

スポーツの祭典オリンピック開催期間の真っ只中、山梨県の湯之奥金山博物館では、スポーツ砂金採りの祭典「砂金掘り大会」を開催します!

日々の努力や練習を重ねて目指すは「金」!アナタもパンニングテクニックを磨いて「砂金」を採り、「金」を目指しましょう!

スタッフ一同、気持ちを引き締め、より一層精進してまいりたい所存です。関係各所の皆様の引き続きの応援、お力添えをいただきたく、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

甲斐の金山500年、今年いきます

—「開府500年」と「信玄生誕500年」の狭間で—

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 館長 出月洋文

まだご記憶に新しい方も多いかと思いますが、昨2019年は、戦国時代の甲斐国の府が現在の甲府市の躑躅ヶ崎の地に整備されて500年が経過し、甲府市の事業として「開府500年」の祝賀イベントがにぎやかに展開されました。

この場合に甲斐国の府とは、甲斐ほぼ一国を領有していた戦国大名武田氏の居館であり、その直前までは、当時は石和と認識されていた甲府市東部の低平地に居館がおかれていました。しかしその地は当時の笛吹川などの氾濫による災害リスクが高く、より安定性のある躑躅ヶ崎に移されていったとみられていますが、また一方で当時の石和の地が、その前後の政治情勢の上で大きな問題をかかえていたという見方もありました。

いずれにしても、政治・軍事の拠点としての武田氏の居館が移転したということなのですが、この時は単なるお引っ越しにとどまらなかったのです。この時の武田家の当主は、武田信虎で、生年に二説あるものの、どちらをとっても若干二十代の若者。武田家の当主で甲斐国守護という立ち位置にありながらも、隙あらばという敵対勢力が、身内を含めうようよといるような状況に置かれていました。そうした反対勢力を抑えての館移しでしたが、反対勢力を抑えるためにも必要な仕事だったと考えられています。時は、永正16年、西暦では1519年、その年も押し詰まった頃というものでした。

新しくできたがあった居館の周囲には、街区形成も進められ、その新都市に家臣団を集めて住ませ、城下町を形成するという新段階に大きく舵が取られていったのです。この城下町の形成が、今の甲府市の誕生の大元になったわけで、それまでの寒村が急速に近代的な都市へ変貌していった、しかもその行程が明確なものだったと言うこと。これは全国的に見て地方都市の誕生としてはたいへん早いもので、このことを経て、武田信虎は守護大名から戦国大名へステップアップしたと評価されています。

いまから500年前、武田信虎によって甲斐国は新段階を迎えたわけですが、それは一つの都市の誕生ということのほかにも、さまざまな分野において新しい段階に進んだのだらうと思われれます。当館が研究テーマとする甲斐国内の金山開発もそうした富国強兵の策の1つとして、この頃に始まっていたのです。

今から30年あまり前、黒川金山跡(甲州市)と湯之奥金山跡(身延町)の学術調査が進められ、それまで“幻の”とされていた甲斐の金山開発が現実のものとして把握され、その始業期が遺物の年代観などから約500年前と考えられるようになってきました。近年、研究はさらに進み、武田信虎の弟である勝沼氏の居館跡から発見されていた被熱土器(溶融物付着土器と呼ばれてきた)に、金粒の存在が突きとめられ、さらには武田時代からの甲府城下町遺跡で、同様な



資料の発見が相次ぐようになってきて、金鉱石採取から金の具体的利用まで、まだ大まかな部分も残りますが、状況の把握が大きく進展してきています。

そうした状況を踏まえ、当館の新年度の大型連休頃の企画として「甲斐の金山500年(仮)」という展示会を目指すことになりました。まだまだ館内の調査研究の充実等の課題が多く、実現までの時間が多く必要ですが、ぜひご期待をいただきたいと考えます。

甲府という都市の誕生は、年月に明確な根拠がありましたが、金山500年にはそれを証する確かな文書等はまだ希薄です。では、なぜこの2020年にそういうのでしょうか。

もう一度武田信虎さんに登場してもらいますが、彼によって甲府が誕生して間もなく、駿河の今川氏の勢力の一部が、その新都市の間際まで侵攻してくることがありました。若き信虎

はその外圧に耐え、はねのけて新時代構築の道を確認にしたのですが、折しもそんな危機の中で、嫡子の誕生ももたらされました。大永元年(1521)のことです。その嫡子こそ後の武田信玄でありました。

山梨県では、来年「信玄生誕500年」を迎えます。信玄の事績にさまざまに光が当てられるメモリアルイヤーになることでしょう。その事績の一つとして金山経営も取り上げられることと思われまます。当館はそれに先駆け、都市誕生と信玄誕生の間において話題性をもたせた「甲斐の金山500年」を考える次第です。

この『館だより』の後の記事でも紹介していますが、湯之奥の金山遺跡についても、新たな展望が出てきています。そうした展望も取り込みつつ、おもしろい企画展の実現ができるよう取り組んでいきたいと思ひます。

「第4回 いでさんぽ」

～内船まで電車で、歴史とひと足早い春を探す小旅行～

期 日: **1月25日(土)**(下部温泉12:14発→内船→下部温泉駅15:58着)

場 所: 内船八幡・内船浅間・内船寺など

※博物館集合後、下部温泉駅から身延線利用で内船に向かいます。

対 象: 一般対象で、定員は15人程度

参加費: 無料ですが往復電車賃(内船～下部温泉間・片道330円)は各自ご負担願ひます。

【内容】館長講座アウトドア版の「いでさんぽ」第4回は、身延線電車で南部町内船まで足をのぼし、県内で最も早い開花のカンザクラを鑑賞したり、内船の歴史を探ったりのひと時となります。

※人数把握のため、博物館まで電話でお申込みください。



館長講座— 峡南の考古学—

第8回「日蓮さんご到来の頃」

期 日: **2月22日(土)** 13:30～(90分)

場 所: 湯之奥金山博物館多目的ホール

対 象: 一般(参加無料)

【内容】“峡南地方の考古学”という切り口で、シリーズ開催している館長トーク。“考古学”からの角度で見た地域の歴史に、実はこんなに面白い歴史がいっぱいあった！そんなテイストで峡南地域の歴史にちょっと目を向けてみませんか。第8回はいよいよ身延山久遠寺を開創された日蓮さんの当地への到来と、関係する波木井実長さんや四条頼基さんたちの動向を探ります。

申込不要で、開催時間に合わせておいでいただくだけで聴講可能です。気構えずにお気軽にご参加ください。



国史跡・中山金山遺跡を文化庁係官視察

11月29日(金)

30年以上前に行われた湯之奥金山遺跡の総合学術調査の成果は、今なお多角的な鉱山史研究の指針となっています。当館では開館以来、継続的に金山遺跡の現地調査を積み重ね、新しい情報の発信や現地公開等の企画を進めてきております。

湯之奥3金山のうち、中山金山遺跡が史跡指定されてから22年余の歳月も経過しました。そうした中、去る11月29日、文化庁の係官を招請し、史跡中山金山遺跡の現状確認等を目的とした現地調査が行われました。史跡が毛無山山中の高所(標高1600m前後)にあり、近年の大雨による土砂流失や動物の食害等がもたらす環境変化などへの有効な対策のあり方、また今後の活用についての新しい方向性をめぐり、史跡の指定を所管する文化庁より直接に指導いただく機会が実現したものです。

視察前日の晩、強い冷え込みの中、博物館の辺りでは雨でしたが、館から眺めた五老峰の山頂部分は真っ白に雪化粧をしていました。この日は、文化庁の野木技官、県学術文化財課の野代主査、町文化財審議委員の石部氏、深沢町教委文化財担当リーダー、当館館長と石部リーダーの6名で現地に向かいました。

登山口から約30分ほどの第1休憩所まで登ると周辺の木々は雪に覆われており、「山の神」ポイントからは、登山道も真っ白な雪に覆われていました。澄み渡る青空でありながら、時折折風が強く、木々の枝に積もった雪が横殴りの風に舞い上がり、まるでブリザードの中のように。過去歴代ナンバーワンと言える過酷な登山と



なりました。なんとか一行は、すっかり雪に覆われた中山金山遺跡に到着し、精錬場を始めとする各テラス、坑道や炭窯、七人塚といった遺構を、深沢文化財リーダーと小松学芸員が現状を説明しました。

実はこの日、視察隊が到着する前の早い時間から、博物館の調査チームが精錬場全体の形状測量調査を行っていました。調査リーダーの久間英樹先生から調査方法や成果について説明もあり、野木技官には博物館が進める調査研究の実際の取り組み状況をつぶさに見ていただくことができました。

続いて、露頭掘り跡と坑道が確認される採鉱域を目指し、登山道を進み、途中の第2地蔵峠でお昼休憩をとりましたが、強風が吹き、氷点下の中、ペットボトルのお茶は凍り付いてうまく飲めない過酷な状況。さらに藪漕ぎ状態で進んでいかなければ到着しない露頭掘りの採鉱域は、10cmを超える積雪の中でしたが、雪の斜面を大露頭掘りまで移動し現状確認を進めていただきました。一連の現状説明を受けた野木技官からは「実際に現地に足を運び中山金山遺跡



を見た中で、場所が非常に山の中にあり、来るだけで大変な場所にあるが“ここまで来た”という達成感が得られる。多くの方に広く公開することも大事だが、ここは選ばれた限られた人に公開するユニークさが打ち出せる史跡として面白い。全国のいろいろな史跡を視察するが、

おそらく一番大変な場所であり思い出深い場所の一つになった。」という感想をいただきました。

下山後のミーティングでは、今後の中山金山遺跡の活用のあり方、史跡甲斐金山としての茅小屋・内山金山の追加指定に向けた課題等について有益な助言や参考情報を得ることができました。

NHK「歴史秘話ヒストリア」、テレビ東京「なんでも鑑定団」に登場しました

テレビ番組中、金山博物館もいくつもの番組撮影に協力し、オンエアされました。ご覧いただいたでしょうか。

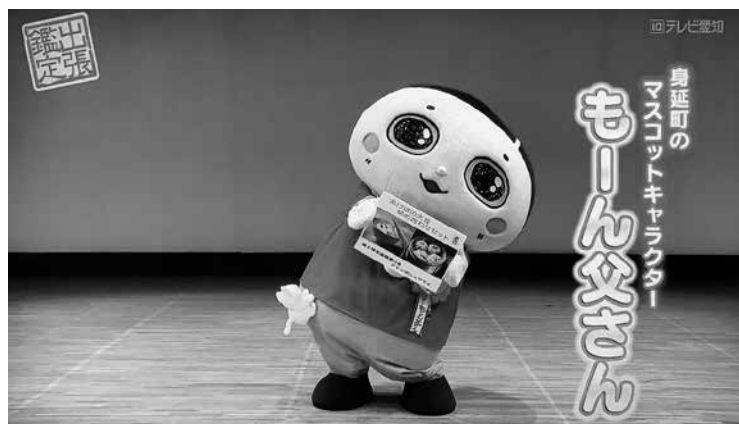
11月6日(水)放送の「歴史秘話ヒストリア(NHK総合)」での「秋だ！戦国の旅へGO」の回にて、湯之奥中山金山遺跡が登場しました。



身延町合併15周年を記念して『開運！なんでも鑑定団』（テレビ東京）の収録が、昨年9月に身延町総合文化会館で行われました。その様子が12月7日(火)に放送されました。そこでは、当館マスコットキャラのもーん父さんが、お宝評価額UPの際のプレゼンターとして登場。オンエアではほんの少しの登場でしたが、収録時は、もーん父さんが登場するたびに司会の原口あきまささんとの掛け合いに会場は笑いに包

まれていました。山梨県内ではテレビ山梨にて2月16日(日)午後4時から放送予定です。

様々なメディア媒体の中での「テレビ」というフィルターを通して、伝えられるものがまだまだたくさんあると思いますが、「歴史を知ること、学ぶこと」に興味を持っていただき、また博物館を広く知っていただけるよう、これからも要請に応じた出演対応をしてまいります。



LED松ぼっくり工作教室

久間英樹先生のものづくり教室シリーズ「LED松ぼっくり&ラトウ工作教室」が11月30日(日)に開催されました。今年度2回目のもので、はんだごてを使用し、作業も複雑なことから、8名参加と人数を絞ったイベントとなりましたが、定員いっぱいで開催いたしました。

久間先生の非常に分かりやすい解説と説明



11月30日(土)

で、全員が息を吹きかけるとライトが消えるLED仕掛けの松ぼっくりが完成しました。同伴の保護者の皆さんからは、「実は簡単だと思って参加したが本格的で驚いた。とても楽しかった。また参加したい」という声をいただきました。

久間先生のモノづくりシリーズは新年度も開催予定ですので、ご参加ください。



オリジナルじえるキャンドル作り教室

町内外から多くのご参加をいただいたじえるキャンドル作り教室。毎年、季節イベントとして開催しているこの教室も4回目。自分のお気に入りのオブジェを入れてオリジナル性を高め、それぞれの個性が出た“グラスサンドアート”を楽しんでいました。今回は、ジェルキャンドルを注ぐ少し難しい作業も自分で



12月7日(日)

やってみたいという子もたくさんいて、体験を通じていろんなことに挑戦してみようという意識の芽生えた教室となりました。小さなお子様も楽しめる上に、工夫しだすとかなり頭と手先を使う高度な体験にも成りうるため、リピーターの方も大いに楽しめたようです。合わせて、サザエの貝殻を使ったジェルキャンドルも作り、約1時間半の工作教室ですが、皆さん大変満足していました。このような事業を通じて博物館を知っていただければと思います。



「世界キャラクターさみっとin羽生」 & 「志木まつり」参加！

博物館外活動で、博物館と地域PRを頑張っているもーん父さん。いろんな地域キャライベントに参加しています。もーん父さんをきっかけに博物館を訪れてくれるお客様も増えてきました。

ご当地キャラの祭典「世界キャラクターさみっとin羽生」は、今年10年目を迎えました。両日あいにくの雨天という悪条件でありながらも、11万人以上の来場者を記録。

やはたいぬ、ニーラ、つっちー、ふじびよんともーん父さん、山梨のご当地キャラ5体で結成する「チームやまなしーず」でのステージ、そして、京都国立博物館のトラりん、そして熊

11月19日(土)～20日(日)、12月1日(土)

本の麴池城の防人キャラ・ころう君と、「ミュージアムフレンズ」で、博物館=ミュージアムもPR。山梨県、そして博物館と身延町を大いに宣伝してきました。

続いて12月には埼玉県志木市の超有名キャラ・カパルが主役の「志木市民まつり」に参加。晴天に恵まれたこちらのイベントは、一日でなんと3万人以上が訪れ、こちらでも来場者とのふれあいを通じて、大いにPR出来ました。

2019年11月3日～2021年3月まで、身延町観光大使にも任命されたもーん父さん。地域PRをさらにさらに頑張りますので、引き続きの応援をよろしくお願いします。



もーん父さんのおともだちマスコット 完成！

もーん父さんマスコット誕生からはや4年・・・お待たせしました。このほど「もーん父さんのおともだち」も完成！！「なんで、ネコがついてるの？」「もーん父さんのおともだちなんです」。お客様とそんなやりとりをし続け、謎多きもーん父さんのおともだちの秘密がここで明らかに！

ネコ型オリジナルタグの裏面は、なんと4匹のヒマラヤンのおともだちについて、名前や性格など詳細な説明が！この価格でこのクオリティ。このサイズ感でお座りスタイルのネコマスコットはなかなかいません。もーん父さん好きにもねこ好きにもたまらない、タグすらかわいいこの一品。4匹のうちの好きな子のお名前がかわいがってあげてください。

もーん父さんと一緒に、カバンにつけて、おともだちをいろんなところに連れて行ってあげてください。博物館売店で絶賛発売中♪あなたなら、どの子のお名前をつける？



今年もやります!第8回「金山遺跡・砂金研究フォーラム」

「博物館応援団Au会」の皆さんが企画開催する「金山遺跡・砂金研究フォーラム」。金山博物館を拠点にフィールドワークを展開している皆さんの経験や体験、疑問点などをテーマにした、年に一度の研究発表会。今回は8人の方が発表いたします。どなた様もお気軽にご参加ください。(0556-36-0015)まで。

期 日：令和2年2月8日(土)午後1時～5時
場 所：博物館映像シアター(博物館2階)
参加費：500円(資料代として)
主 催：博物館応援団Au会
共 催：甲斐黄金村・湯之奥金山博物館
(※発表時間は15分+質疑応答5分=20分)



第8回金山遺跡砂金研究フォーラム 当日の日程

12:30～ エントランスホールにて、出月洋文館長によるギャラリートーク

13:00～ フォーラム開会式・発表スタート(※順番は確定ではありません。)

- 1 鰐部 幸隆(愛知県)「砂金って何が含まれているの?身延町採取砂金の元素分析結果について」
 - 2 三木 昌信(兵庫県)「離島の砂金をさがして ～沖縄 久米島編～」
 - 3 中村 軒一(愛知県)「金属探知機を調査した件」
 - 4 春山 崇(群馬県)「群馬の砂金についてのおはなし(仮)」
 - 5 若月 章弘(静岡県)「世界砂金採り選手権大会2019—フィンランド」
 - 6 野村 敏郎(兵庫県)「砂金採取道具の自作①手動土ふるい器SC-1利用のトロンメル②木製バターの自作」
 - 7 広瀬 義朗(岐阜県)「柴金遺構の探し方」、「岐阜県高山市荘川地域の柴金遺構を歩く」
 - 8 久間 英樹(鳥根県)「軽量・安価な3次元レーザスキャナを用いた鉱山遺跡の測定」
- ポスターセッション① 宮坂 隆志(長野県)「職人の道具」

栃代金山チャレンジウォーク 参加者受付中

期 日：令和2年3月15日(日) 9時集合(9時30分出発～14時帰館・解散)

集合場所：湯之奥金山博物館(館から庁用車に乗り合わせて移動します)

定 員：15人(対象：町内外一般) ※参加無料

身延町栃代地内にある“栃代金山”の資料は非常に少なく、全貌はほとんど明らかではありません。そんなベールに包まれた栃代金山の歴史の現場を探訪し、歴史の謎ときにチャレンジしませんか?

今年度ラストの見学イベント。どなたさまもお気軽にお誘い合わせのうえ、ご参加ください。お申込み・問い合わせは湯之奥金山博物館(0556-36-0015)まで。

編集後記

令和初のお正月。今年は暖かく穏やかな日が続きましたが、皆さまはどのように過ごされたでしょうか。

さて、一日一日を大事にしながら、着実に成果を出していきたいというのが新年の抱負。毎年同じようなことを言っていますが、大事だからこそ同じことを言っているのだと思います。世間的にも大きな節目を感じる2020年。「甲斐金山遺跡」の意義や歴史を、ガイダンス館としての役割を果たしながらお客様に楽しんでいただき、有意義な時間を過ごしていただける博物館づくりが大切。身を引き締める今日この頃です。令和2年もよろしく願いいたします。

6月までの開館時間：午前9時～午後5時迄(受付は午後4時30分迄)

休館日：毎週水曜日

博物館だより

第90号 令和2年1月25日

〒409-2947 山梨県南巨摩郡身延町上之平1787番地先

TEL 0556-36-0015 FAX 0556-36-0003

博物館HPアドレス <https://www.town.minobu.lg.jp/kinzan/>

博物館Eメール yunoking@town.minobu.lg.jp もーん父さん 